

商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2021年10月調査結果-

調査概要

- 調査期間 2021年10月12日～10月31日
- 調査対象 200社
- 回答企業 129社
- 回収率 64.5%

※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準として、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。

DI値 = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) / 売上：(増加) - (減少) / 仕入単価：(下落) - (上昇)

販売単価：(上昇) - (下落) / 従業員：(不足) - (過剰)

旭川市概況

※全産業の10月の状況を見ると業況DIは、前月より9.4ポイント改善の▲32.6となった。

2017年9月以来50ヶ月連続でマイナス水準を推移している。

※向こう3か月の全産業における、先行き見通し業況DIは▲28.7、当月と比べ3.9ポイントの改善が見込まれる。

旭川市全産業 DI 値（前年同月比）の推移

	2021年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 2021年11月～ 2022年1月
業況	▲27.7	▲37.0	▲28.1	▲37.2	▲42.0	▲32.6	▲28.7
売上	▲10.8	▲22.0	▲11.0	▲19.2	▲26.4	▲14.7	▲8.6
採算	▲22.3	▲41.0	▲29.6	▲33.0	▲45.2	▲34.9	▲30.2
仕入単価	▲36.2	▲44.9	▲43.7	▲47.7	▲51.6	▲62.0	▲56.6
販売単価	0.0	6.3	9.3	1.5	5.6	4.7	7.0
従業員	19.2	16.5	18.0	23.9	25.8	19.4	18.6
資金繰り	▲15.4	▲13.4	▲11.7	▲16.3	▲18.6	▲17.1	▲18.6

旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

	2021年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 2021年11月～ 2022年1月
建設	▲28.5	▲32.3	▲20.0	▲27.6	▲31.1	▲18.5	▲25.9
製造	▲13.4	▲25.0	▲30.0	▲34.5	▲42.9	▲37.5	▲31.2
卸売	▲27.6	▲29.6	▲14.3	▲35.7	▲29.6	▲20.7	▲17.3
小売	▲35.0	▲61.1	▲50.0	▲63.2	▲52.9	▲44.5	▲44.4
サービス	▲39.1	▲47.9	▲36.4	▲33.3	▲60.9	▲47.8	▲30.5

今月のトピックス（業界の声・経営上の問題点）

建設業	<ul style="list-style-type: none"> ・民間の設備投資のマインドが下がっている傾向。民間工事受注に繋がることは困難な状況になり、決算期の建築工事部門の売上減を見込む。又、燃料の高騰及び建築資材価格の上昇により工事利益の減少が予想される。 （総合工事） ・ハウスメーカーやゼネコン・サブコンから受ける工事は例年並みの受注で定例的な維持管理の工事も特に変化はないため、年内はフル稼働の状態が続くそうである。人材については不足しており、即戦力の人員と将来を見据えて若い人材の確保を積極的に進めたいと考えている。（設備その他） ・コロナウイルスにより必要資材が上昇し、納入日が不透明で工事に支障が出てきていることが心配している。（建築業）
製造業	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急事態宣言、まん延防止等措置が全国的に解除され発注が少しずつであるが入ってきた。コロナ前の売上にはまだ程遠いものの、今後の見通しが明るくなると思われる。ただ第6波で宣言が発令されると売上が伸びなくなる不安もある。 （食料品） ・新型コロナにより経済の低迷による印刷物の減少。（印刷・出版） ・旭川本社にてリアル開催を予定した展示会は、全国の支店にて分散開催とし、新作の展示やショップリフレッシュを実施した。予約制にも関わらず多くのお客様にご来場いただき期待の持てるイベントとなった。（家具・木材） ・全ての仕入れ単価が上昇、特に鋼材、アルミ材の単価上昇の天井が見えない。出荷製品単価への上昇分の転嫁が追いつかない。（金属窯業他）
卸売業	<ul style="list-style-type: none"> ・消費の低迷が要因の一つであるが、それ以外にベトナムのロックダウンによる商品の未入荷、中国の電力制限による生産の遅延、コンテナ不足による遅延、新疆ウイグルの人権問題による綿相場の高騰による価格上昇、石油価格の高騰、為替（円安）による価格上昇などにより商品供給の不安定さや価格の上昇などで市場が混乱し始めている。 （繊維・衣服等） ・コロナによる仕事量の減少は特にないが、海外都市のロックダウンにより販売資材の未入荷の状況が1カ月続いており、まだ目途が立っていない。仕入単価の上昇が続いており、落ち着く感じが全くない。（機械鋼材） ・灯油について仕入値の上昇に伴い販売価格の値上げを実施したものの、原油価格が更に上昇、加えて円安となっていることからさらなる値上げも想定される。（その他）
小売業	<ul style="list-style-type: none"> ・10月に入り緊急事態宣言解除により来店客が少しずつ増えてきている。まだまだ売上にはつながらないが季節の変わり目商品も揃っているので顧客に向けて販売アプローチを行っていく。（衣服身回品） ・緊急事態宣言が解除されたが、未だ売上の回復とまではいかず、今後徐々に上向いていくと良いのだが。（食料品） ・仕入価格の上昇に販売価格の値上げが追いついていない。灯油も含めた燃料油については高すぎることで買い控えが予想される。（その他）
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> ・前月より少々増加しているが、全体で昨年の2割減。厳しい中頑張っている。今年中はコロナの関係で減少が続くだろう。（理美容・クリーニング） ・従来は生じないテレワークやオンライン会議等への対応等、コロナ対策への設備投資や経費が増加し利益を圧迫している。（その他） ・緊急事態宣言の解除により店を開けることが出来たが昨年ほど売上は伸びてこない。今後また宣言が出されないか心配。（飲食） ・緊急事態宣言が明けて人の動きは戻りつつある。修学旅行等が10月に集中してその点で稼働状態は向上した。しかし軽油単価が一気に上昇しコストを圧迫させている。冬期に向けて多客期を迎えるとはいえコロナ前に到底戻っていない状況での燃料費コストアップは非常に厳しい。（運送）

旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	<p>売上 DI23.7 ポイント改善、採算 DI36.9 ポイント改善、仕入単価 DI10.9 ポイント悪化、販売単価 DI13.4 ポイント悪化、資金 DI16.9 ポイント改善、従業員 DI17.0 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 12.6 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、建築業 7 ポイント悪化、総合工事 8 ポイント、設備・その他 30 ポイント改善となった。人手不足に加え、働き方改革による休日の取得・残業の削減等の対策としての生産性の向上（ICT 活用等）対策が急務との声も寄せられている。</p>
製造業	<p>売上 DI2.8 ポイント悪化、採算 DI2.7 ポイント改善、仕入単価 DI26.8 ポイント悪化、販売単価 DI15.0 ポイント悪化、資金 DI5.3 ポイント改善、従業員 DI9.4 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 5.4 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、印刷・出版 31 ポイント、金属窯業他 19 ポイント悪化、食料品 43 ポイント、家具・木材 34 ポイント改善となった。資材・原料費の値上げが相次いでおり、経営を圧迫している。原油も高騰しているようなので、今後石油精製品の値上がり心が心配との声も寄せられている。</p>
卸売業	<p>売上 DI9.0 ポイント改善、採算 DI1.7 ポイント悪化、仕入単価 DI10.2 ポイント改善、販売単価 DI16.2 ポイント改善、資金 DI2.7 ポイント悪化、従業員 DI5.0 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 8.9 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、食料品 4 ポイント悪化、繊維・衣服等 20 ポイント、機械鋼材 18 ポイント悪化、その他 11 ポイント改善となった。ウッドショックの影響により価格上昇、商品不足による住宅新築改修工事の減少もあり今後も悪化すると思われるとの声も寄せられている。</p>
小売業	<p>売上 DI12.8 ポイント改善、採算 DI8.8 ポイント改善、仕入単価 DI9.8 ポイント悪化、販売単価 DI5.6 ポイント悪化、資金 DI7.2 ポイント改善、従業員 DI6.8 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 8.4 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、衣料品、自動車横ばい、食料品 25 ポイント、その他 7 ポイント改善となった。コロナの影響が残っており、観光客を含めた来店者が依然として少ない。固定費はこれ以上の圧迫は難しく助成金申請などでしのいでいるが徐々に苦しくなっているとの声も寄せられている。</p>
サービス業	<p>売上 DI17.4 ポイント改善、採算 DI4.4 ポイント改善、仕入単価 DI13.1 ポイント悪化、販売単価 DI13.1 ポイント悪化、資金 DI8.7 ポイント悪化、従業員 DI21.7 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 13.1 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、整備業 50 ポイント悪化、理美容・クリーニング、その他横ばい、ホテル・旅館 60 ポイント、飲食 7 ポイント、運送 33 ポイント改善となった。仕入（材料・燃料）うなぎ昇りで経営を圧迫。レストラン来店客は緊急事態宣言解除後も低調との声も寄せられている。</p>